

94 C 432
(127 C 043)
(11 C 1)
(94 C 43)
(127 F 1)

特 許 庁
実 用 新 案 公 報

実用新案出願公告
昭42-22634
公告 昭42.12.22
(全2頁)

歯科用金属熔融鍋

実 願 昭 40-34083
出 願 日 昭 40.4.28
考 案 者 矢田義一
大阪市東成区大今里本町5の36
出 願 人 矢田化学工業株式会社
同所
代 表 者 矢田義一
代 理 人 弁理士 旦六郎治 外1名

図面の簡単な説明

第1図は本考案の歯科用金属熔融鍋の正面図、第2図は同じく平面図、第3図は第2図A-A縦断面図、第4図は第1図B-B縦断側面図である。

考案の詳細な説明

本考案は長柄を取着けた歯科用金属熔融鍋を平面上に置いとき安定をよくするため長柄の取着端に二又脚を形成してなるものであつて、図において、1は熔融鍋にして底面の一侧を僅かに上向する傾斜面2とし、熔融鍋1の傾斜面2の上方側面に長柄3の先端を二股に分割して形成した二又脚4を取着け、長柄3の他端に木柄5を取着けて

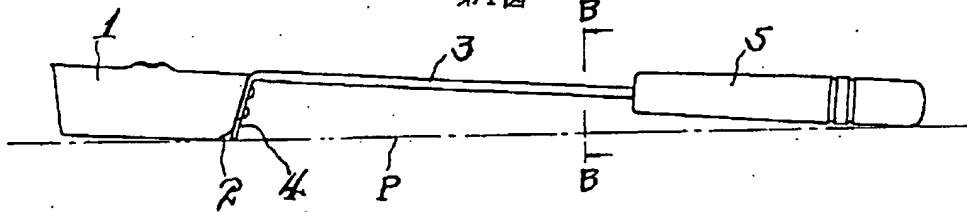
第1図に示すように木柄5の後端下面と二又脚4との三点を平面台P上に平置したとき、鍋1は底面が平面台Pに対し僅かに傾斜して浮上がり傾斜面2の端縁が平面台Pに接して安定するように構成してなるものである。

本考案の熔融鍋は歯科技工用の金属を熔融する際に使用するもので、鍋1を加熱して金属を熔融したのちこれを工作用の平面台P上に置くとき従来の長柄3には二又脚4がないため木柄5の後端下面と鍋底の傾斜面2の二点で安定していたが鍋内の熔融金属の重量により鍋1は必ずしも安定せず揺動して熔融金属を流出する等の失敗があつたが、本考案は長柄3の取着端に二又脚4が突出しているので長柄3が平面台に三点接触しているため鍋1は熔融金属の有無に拘わらず確実に安定して平面上に定置することができ、安心して歯科技工を行える効果を有するものである。

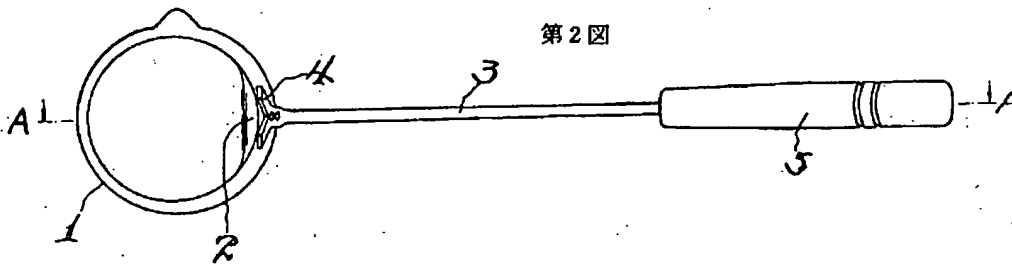
実用新案登録請求の範囲

熔融鍋1の底面の一侧を僅かに上向する傾斜面2とし、この傾斜面2の上方の鍋側面に長柄3の先端を二股に分割して形成した二又脚4を取着け長柄3の他端に木柄5を取着けて二又脚4及び長柄3の三点接触により鍋1を安定する歯科用金属熔融鍋。

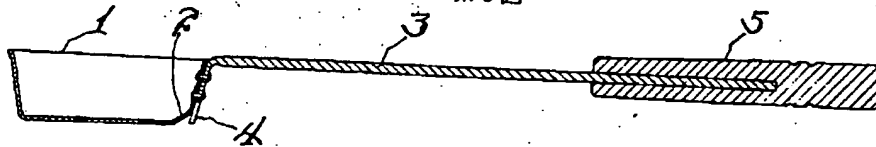
第1図



第2図



第3図



第4図

